

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4170300141		
法人名	医療法人社団 三善会		
事業所名	グループホーム大樹		
所在地	佐賀県鳥栖市萱方町270番地		
自己評価作成日	令和 5年 11月 1日	評価結果市町村受理日	令和6年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和 5年 12月 6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家庭的な環境のもとで入居者様の心身の能力を維持、向上し、自立した生活を営む事ができるようにその方に合わせた個別ケアを目指し、安心・安全に生活できる場の提供に努めている。  
また、山津医院併設の為、医療との連携を行い健康管理、異常の早期発見に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

同一敷地内に同法人の有床診療所、有料老人ホーム、地域包括支援センター(委託)などが併設されており、医療介護連携が取りやすい環境にあるホームである。特に併設診療所による24時間のオンコール体制は医療機関併設の最大の強みと考えられる。  
生活の中心となるリビングや廊下には季節ごとの手作りの紙細工が飾られ、加えて居室番号も職員手作りの楽し気な表札が掲げられており、職員、入居者ともに温かさを感じられる空間となっている。コロナ禍ではあるが可能な範囲で散歩等を行われ、今後法人での検討を経て、外出の機会を図り、入居者の楽しみながらの生活が実現できるように努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム大樹の理念を掲げ事務所、トイレ等目の付く所へ掲示し始業前には目を通すようにしている。	玄関など目につく場所をはじめ、名札に法人理念を携帯し、職員が各自確認、振り返りが可能な状態を作られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人で開業していた健康教室や夏祭りなど地域の方を招く行事コロナ禍後開催できていない。毎週施設周辺の掃除、地域清掃への参加は行っている。	地域の行事や清掃活動に職員が参加し、ホームのことを知ってもらう機会を作るとともに、地域との交流に取り組みされている。入居者の外出行事もコロナ禍の状況で再開を検討されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	健康教室にて行っていたがコロナ禍後より中止中にて実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を実施している。コロナ禍より参加者を行政、事業所のみで行い家族、地域へは書面にて報告していたが令和5年9月より家族、地域の参加も再開している。	運営推進会議には入居者家族、行政をはじめ理事長も参加されている。また参加されない家族にも面会時に聞き取りをしたり、意見を募る葉書を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回行政から参加あり。その際に報告、助言を頂いている。また、必要時尋ねたいことがあれば電話、訪問を行っている。	管理者やケアマネジャーが中心となり、同法人の地域包括支援センターや行政とやり取りをされている。顔の見える関係性であり、日頃から相談がしやすい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内、外部研修を通して職員に伝達研修を実施し理解を深め、可能な限り身体拘束をしないケアを心がけている。やむ負えない場合は利用者、家族に同意を頂き実施している。実施時は定期的に身体拘束の必要性に対し評価している。	身体拘束は行われていない。法人全体で3ヶ月に1回、身体拘束適正化委員会を実施している。ホームでの会議は月1回行われているが、対象者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内、外部研修を通して職員に伝達研修を実施している。また定期的に高齢者虐待防止に向けた自己チェックリスト行い日頃から意識して支援ができるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内、外部研修へ参加をし内容を職員に伝達研修という形で実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更等ある場合は書面による説明、同意を頂いている。締結、解約もご家族へ説明し了承、書面による同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時にはなるべく管理者、ケアマネより近況報告を行なっている。面会が少ないご家族へは電話等利用し近況報告を心がけている。また意見箱を設けたり運営推進会議の案内葉書に意見等書き込めるようにしている。	玄関の職員から見えない位置に意見箱を設置し、運営推進会議の出欠葉書に意見欄を設けて、家族が意見を伝えやすいようにしている。また、面会時には入居者の近況報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにて職員の意見や提案を聞く機会としている。また随時意見など反映できるよう心がけ、法人内の運営会議でも意見や、要望を反映し解決策を話し合う機会を設けている。	会議等では職員からの意見がよく出るため十分な話し合いができてる。ホームでの解決が難しい事項については、法人の会議に挙げて、組織的な対応を検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革の取り組みを実践し職場環境、条件の整備に努めているまた各職員へは年二回の自己評価、年に一度のストレスチェックを実施し状況把握行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修では時間外や公休を利用し参加することが多く積極的な参加は出来ていない。参加時は参加職員により伝達研修にて内容の共有行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会を通して出来た繋がりを活かし意見交換や他施設の見学を行い事業者のサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前にご本人、ご家族と話し合う機会を設け初期ニーズの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る経緯やが要望に耳を傾け、ご本人、ご家族を理解し信頼関係の構築が出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前に把握した初期ニーズをケアに取り入れるとともに、同一法人を利用されていた方が入居される事が多い為、他のサービス利用時の状況を情報収集している。また医療面での支援の必要性を同一法人の医師や看護師に意見をもらえるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能を活かしてできる事を一緒に行うようにしている。介護者本位のケアにならないよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍より面会の制限がある為、ご利用者に変化があった際などはご家族と連絡を密に取ったり、日頃の様子などを伝えるようにし関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同一法人内に親戚の方や、近所の知り合いの方がおられる為、会いに行ったりしていたがコロナ禍により機会は減っている。関係や思い出が途切れないよう会話の中で話題を出したり様子を伝えたり工夫している。	家族面会の際には、職員からも日頃の様子を伝えるようにしている。また、葉書を書く入居者への支援も行っている。馴染みの方々へ、本人の気持ちを伝えられるよう配慮し、関係継続の支援に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談話室(食堂)の座席替えやレクリエーションを実施したり、参加されなくても同じ空間にいて孤立しないようにしている。コミュニケーションが困難な方でも職員が間に入り関わりを持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の経過や、ご家族のフォローまでは至っていないが相談等あった場合は同一法人内で他職種連携を取り力になれるよう体制は整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自身の希望や意向を伝えられる方は少ないが日頃の生活や会話の中でご本人の希望や意向を汲み取り検討しサービスに反映できるように努めている。	日常の会話で言葉として意思を伝えられる方へは、話をゆっくり聞いている。その他、全ての入居者の表情や仕草などの表出に気を配ることで、意思を汲み取るよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメント表への記載を行い、把握に努めている。また、ご家族が来られた際にも情報収集を行い都度追記、修正行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の変化に気が付いた際は職員間で情報共有し把握を行っている。ミーティング等で意見を出し合いその方の現状に合ったサービスが提供できるよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一度、介護職員がモニタリングを実施しミーティングで意見を出し合いケアプランの修正行っている。	担当職員を中心として意見を出し、ケアマネジャーが取りまとめている。目標が大きく変わることは少ないが、方法や内容については見直され、変更されている。しかし、家族との話し合いは、不十分な面が見受けられる。	ケアプランについて、家族は報告と捉えられていることがあり、意見や質問を促し、本人、家族と一緒に考えながらのプラン作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日常の様子、ケアプランの実施状況記入している。また情報の共有は申し送りノート等を活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内の他職種と連携を行いご本人、ご家族の希望や要望に応じてサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者の困難なケース等は介護保険課や包括など関係機関へ相談、助言頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどのご利用者の主治医は併設の医院の為、毎週の往診、希望時、急変時にはオンコール体制で医療的サポートが受けられるよう体制が整っている。また、訪問歯科も利用し適切な医療を受けられるよう支援している。	入居者はほぼ併設医院からの往診を受けている。それ以外の受診については家族対応だが、ホームでの状況等の情報提供を行っている。緊急時は救急医療機関への搬送支援を行う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医院の医師、看護師が24時間オンコール体制で対応できる状態である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会、状態確認を行い入院先の看護師と連携がとれる体制を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段からご家族に状態報告を行い意向について確認を行っている。ご利用者、ご家族の希望に沿ったものとなるよう同一法人の多職種と連携を取り方針の検討を行う事もある。	ホームでできる対応の説明を行い、入居者、家族の希望に沿った対応ができるよう努めている。併設医院があるため、心配な時に入院が可能なこと、病状説明を医師から受けやすいことが、ホームの強みである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の急変や事故発生時にはオンコールにて医院の医師、看護師と連絡が取れ、介護職員の急変時の対応については法人内研修で実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を通して避難方法について実践できるようにし、マニュアル作成にて情報の共有を行っている。また、地域の方にも災害時には協力頂けるようお願いしている。	ホームでは夜間想定火災訓練を年2回実施している。うち1回は法人全体で行い入居者も参加している。備蓄食料は法人全体で300食分管理され、業務継続計画の作成にも取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内でプライバシー保護や職員の接遇について研修を行っている。法人全体の朝礼、ミーティング時に適切な言葉かけや対応を心がけられるよう周知、確認を行っている。	法人で年1回、接遇研修を実施している。入居者への言葉かけ等については随時、職員同士が相互に注意し合えるように努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の行動や発言を見逃さないようにしご本人の気持ちや、希望を汲み取れるよう努めている。また会話の中から引き出したり、ご自身で選んで頂けるような対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や体操、個別訓練は午前と午後に行い、ご利用者の希望に沿って支援できるようにし、なるべく選択肢を作り決めて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の要望を聞き、必要なもの等はご家族に持って来て頂いている。訴えがない方でもその方が好まれそうな衣類やアクセサリ等準備して頂くよう依頼をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は外注の為、行っていないが、行事の際に食事やおやつ作り実施し、ご利用者の希望を取り入れてホーム内で行っている。ご利用者の能力に合わせてカットや皮むき、盛り付け等、手伝って頂き一緒に行っている。	同一敷地内で準備した食事を提供のため、調理の機会はないが、おやつ作りや行事の際に皮むきやカットなど一部調理を行ってもらっている。また本人の好みの食器を持ち込めるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注ではあるが栄養士が調理師と協力し、栄養バランスの取れた食事を提供している。水分量については各ご利用者の摂取量を把握し水分不足とならないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケア実施。ご自身で困難な方は職員が介助している。状況に応じて訪問歯科を利用し口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を取り一人一人の排泄パターンや習慣の把握に努め、声かけや誘導等その方に合わせた排泄支援を行っている。	排泄記録をつけ、間隔をみながら声掛けしトイレ誘導を行い、排泄の自立ができるように努めている。入居者の生活習慣にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録にて各ご利用者の状態把握を行い、お通じに良い食べ物や飲み物の摂取を勧めたり体操や個別訓練を実施し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後に入浴の時間を設け、希望に沿って入浴支援を行っている。隔日に声かけを行っているが断られた際はご本人の意思を尊重し、無理強いせず時間や日を改めお誘いしている。	入浴の際には入浴剤を準備し、楽しみながら入浴ができるようにしている。入浴を拒否された場合は時間をずらし、再度声掛けを行い、希望に沿った入浴に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう日中に適度な運動やレクリエーション等、活動を行っている。日中でもご利用者が状況に応じていつでも休めるようにしている。また衣類や寝具、エアコンを利用し体温、室温の調整を行い気持ちよく睡眠ができるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルにて各入居者の薬の把握を行い、新しく処方された薬は申し送りノートに記載し情報の共有に努めている。また服薬時は他職員へ日付、時間、名前の確認、呼称を行い誤薬予防を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割ではその方の能力に合わせてお手伝いなどを依頼している。各々の得意な事、好きな事をレクリエーションや余暇活動に取り入れ喜びや、楽しみを感じて頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外出は控えていたが天候がよい日には施設周辺の散歩を行ったりと少しずつ外出の機会を増やしている。	近隣に藤や桜を見ることができる公園があり、散歩に行っている。またホームのバルコニーが広く、日光浴をされることもある。今後は、車での外出を増やそうと検討されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が財布にお金を持たれている方もいるが、使う機会がほとんどない状態である。ご本人が必要なものはご家族が購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があった際はホームの電話でご家族へ電話をかけ話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室はわかりやすく掲示を行いご利用者が過ごしやすい環境作りに努めている。ホールではオルゴールやピアノの音の落ち着いた音楽をかけゆったりと過ごしていただけるよう工夫している。また季節を感じられるよう、季節に合った手工芸作品を飾ったりしている。	職員の声掛けなどに加えて、壁に季節ごとの手作り作品が多く飾られており、温かい雰囲気を作られている。また、換気や適宜消臭スプレーを使用し、においがないように配慮されている。快適に過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席を検討したりソファや椅子を設けるなどして快適な居場所作りに努めている。また季節に応じて日当たりなどを考慮しテーブルの配置なども変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人、ご家族が馴染みのある物、納得いく配置をお勧めしている。写真や置物なども飾ってもらい家庭との延長線として居心地よく過ごしていただけるよう努めている。	本人が使い慣れた家具等の持ち込みができ、自宅と同じような感覚で過ごせるよう配慮されている。しかし、おむつ等が見えやすい場所に置かれている部屋があった。	おむつ、尿取りパットは、排泄に関わるものでもあり、置き場所によっては、羞恥心や尊厳を損なうことにもつながる為、置き場所の配慮が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各ご利用者の能力、残存機能の把握に努めミーティングや申し送りノートを活用し情報共有を行い残存機能を活かした生活支援の実施に努めている。		